

# 『生きる』を支える意思決定支援

病床管理担当師長 緩和ケア認定看護師 清水 里夏子

令和6年12月18日(水)全職員対象の倫理研修を開催しました。タイトルは『生きる』を支える意思決定支援』として、様々な病気やライフスタイル、ライフイベントを抱えながら、最期までその人らしく『生きる』とはどういうことか、研修参加者が自分に置き換えて考えられる『もしバナゲーム』をしました。

命の危機が迫った状態になると、約70%の方が、受けない(あるいは受けたくない)医療やケアなどを自分で決めたり、望みを人に伝えたりすることができなくなると言われています。そういった『もしもの時』について、大切な方と話し合ったことはありますか。「分かってはいるけど、なんとなく、縁起でもない」と言って避けていませんか。「話し合わない」という選択も尊重します。しかし、人生の最期をどう過ごしたいか考えたり話し合ったりして、友人や家族といった大切な人に自分の願いを伝えておくことで、『もしもの時』に自分だけでなく、貴方の大切な人の苦しみも緩和します。そういった話し合いをゲーム感覚で体験できるのが『もしバナゲーム』です。

研修では、人生会議(Advance Care Planning: アドバンス・ケア・プランニング)の講義後に皆さんで『もしバナゲーム』をしました。このゲームは、重病の時や死の間際に「大事なこと」として人がよく口にする言葉が書いてあります。例えば「どのようにケアして欲しいか」「誰にそばにいて欲しいか」「自分にとって何が大事か」といった内容です。1枚ずつカードを取り、自分にとって大事

なことが書いてあるカードは手元に残し、そうでないカードは捨てていきます。自分自身の価値観を考え、一緒にプレイする人と価値観を語り合うことで、自分自身の『生きる』について考え人生会議の一端に触れる体験となりました。参加者からは、価値観は個人によって職種によってこんなに違うのかと驚いたといった感想が聞かれました。

患者さんの意思決定を支援するには、多専門職種による多面的な価値観を貴重としたチームアプローチが必要です。また、超高齢社会を迎え、様々な体験、人生観、価値観をもつ高齢患者さんに対するEOLケア(End-of-Life Care)の一環としても、意思決定支援は大きな課題です。

今回の研修は、管理課職員、診療情報管理士、看護師の方々に参加してくださいました。今後も様々な職種の方々と一緒に語り合っ、患者さんに支援を届けていきたいと思ひます。



『もしバナゲーム』の様子